

### 国民健康保険の現状

## やむにやまれぬ税引き上げ

### 増え続ける医療費

### 変動少ない 被保険者数

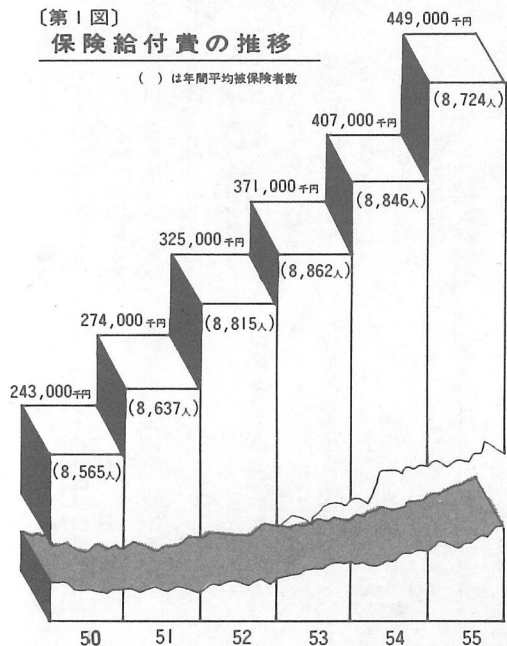
五十五年度の被保険者(加入者)数を、五年前の、五十年年度と比較してみますと、その伸び率は、わずか二パーセントにすぎません。一方この間に、被保険者のみならず、お医者さんにかかった件数は、十七パーセント増加しています。

### 医療費は五年 で一・八倍に

また、これを金額面でみますと、医療費は年々伸び続け、五年の間に、実に八十二パーセントも増加しました。

この医療費の支払いは、一般的には、被保険者のみなさんが窓口で三割を支払い、残りの七割を町の国保会計(独立採算が建て前の特別会計)から支払う仕組みになっていますが、この町からの支出額を示す「保険給付費の推移」図

〔第1図〕 保険給付費の推移



一)をみてわかるとおり、最近はこの伸びが、年に五、六千万円にも達するようになっていました。

### 保険税で運営 する国保

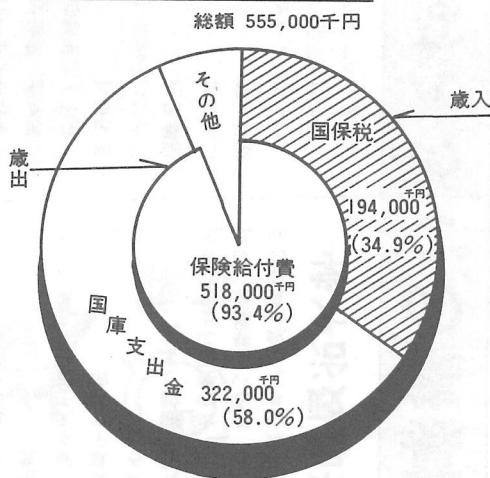
それでは、この支払いのための財源はどうなっているのでしょうか、第二図をご覧ください。国保運営の費用としては、一定の比率によって交付される国庫支出金が

最も大きく、その他、県補助金や雑収入など小額なものまでありますが、国保で負担すべき総額から、これらの収入の合算額を差し引いた残りの額(不足額)は、すべて被保険者のみなさんに納めていただく、国保税でまかなうシステムになっています。

### 医療費増で 税が上がる

したがって国保税は、この事業の性格上一般の税とは違い、景気の動向や所得の増減にかかわらず、医療費が増加すれば、必要不可欠これを引き上げて、財源不足を補うこととなります。言いかえれば、みなさんの使う医療費が増えれば、それだけ保険

〔第2図〕 昭和56年度国保予算の構成



税が高くなるということですが。

### 医療費は なぜ伸びる

この医療費の増高傾向は、全国的なものです。その原因は一体何なのでしょう。

自然増と言われる医療件数や費用の通常の伸びのほか、一般的に論ぜられているものに、医学の進歩や人口の高齢化があげられます。

### 医学の進歩が もたらすもの

医学の進歩は、まさに驚異的でありまして、技術の高度化はむしろのこと、医療機器の近代化や新

薬の開発など、私たちの健康増進に、計り知れないほど大きな成果を示していますが、費用の方もそれなりに高額化してまいりますので、医療費の伸びる一つの要因といえるでしょう。

これは、現在年間三千万円を超える「高額療養費の支給制度」(現行患者の窓口負担が、月三万円を超えれば、その超える部分を国保が負担)の現状からも、その傾向がうかがえます。

### 三割以上が 老人医療

また、高齢者人口の増加や、老人医療の無料化から、老人医療費の占める割合も、非常に大きなものがあります。五十五年度の実績